

第38回 全国きき酒選手権大会レポート

新日本
一決

個人の部は長野県・高橋嗣明さん
団体の部は宮城県・三村・奥村ペア



高橋さん



三村さん

奥村さん



日本酒造組合中央会

平成最後の王者は誰だ！平成30年度のきき酒日本一を決定する「第38回全国きき酒選手権大会」が10月26日、東京港区のグランドプリンスホテル新高輪で開催され、＜個人の部＞は長野県代表の高橋嗣明さん、＜団体の部＞では三村聖子さんと奥村直美さんの宮城県チームが、見事、栄冠を獲得。女性ペアの団体部門制覇は33回大会の長野県以来5年ぶりの快挙です。また、今年も特別枠として「大学対抗の部」と「インターナショナルの部」が実施され、真剣な表情できき酒に挑戦する若者や外国人参加者の姿が大会を盛り上げました。



難しいけど、おもしろい！女性も大学生も外国人もベテランも、持てる力をフル投入して、渾身の競技風景を繰り広



36 都道府県の代表 72 名が参戦。神奈川、福岡も初参加で充実の大会



36 都道府県の予選を勝ち抜いた 72 人（1 県 2 人）が、個人、団体の優勝をめざして自慢の技を競い合った「第 38 回全国きき酒選手権大会」。今回は神奈川・福岡 2 県が初めてエントリーしたほか、特別枠の「大学対抗の部」「インターナショナルの部」でも参加者が増加。また、各県代表 72 人のうち女性が 27 人を数えるなど、きき酒競技の人気の広がりを印象づける大会となりました。開会式で主催者挨拶を行った日本酒造組合中央会の七田需要開発委員長は、「鍛えた技を存分に生かして闘い、競技の後は懇親の場で飲み仲間を増やしてください」と参加者を激励しました。



七田需要開発委員長



■ 始めに、昨年団体の部で優勝を果たした高知県チーム（今年の代表は左から、三戸・川田ペア）が、七田委員長に優勝杯を返還。



■ 選手宣誓は、昨年の団体準優勝チーム・京都府の 2 人（左から、天鷲・國下ペア）。「磨き上げた官能で正々堂々きき酒することを誓います」



■ 競技に先立って、濱田審査委員長（中央会理事）が、きき酒方法や注意事項を説明。「香りや味の特徴を自分の言葉でメモすること」



■ 「インターナショナルの部」には米・中・韓・英・台湾など 12 カ国から 23 名がエントリー。



■ 「大学対抗の部」には、首都圏を中心に、関西、四国など 13 大学の学生 26 名（13 組）がエントリー。



■ 開会式が終了して、いよいよ試合開始。まず挑戦したのは、酒造の歴史や醸造方法などに関する筆記試験（20 分）。「ハイレベルだったけど結構できた」という選手も。



競技は7種類の日本酒のマッチング。息詰まる15分の真剣勝負



午後1時、きき酒本戦のスタート。競技方法は、7種類の日本酒（純米吟醸酒、大吟醸酒、純米酒、本醸造酒、生酒、低アル酒、普通酒）を前後2回きき酒して、好みの順位を合わせるマッチング法で、制限時間は15分。5つの組に分かれて競技に望んだ選手たちは、地元関係者らが息を殺して見つめる中、全神経をフル回転させてきき酒に集中していました。競技を終えた選手からは「予選に比べて緊張感がハンパない」（東京都代表）「わかったのは2種類。他の酒の特徴がつかめなかった」（福島県代表）「点数の多さと時間制限で慌てたけど、勉強になりました」（学生代表）「結構わかった。楽しかった」（イタリア人参加者）「自宅で練習してきました。日本酒の味は本当



審査委員を務めた、国税庁課税部鑑定企画官室の近藤企画官（左）と、中央会の須藤技術顧問



■ 会場の雰囲気もフレッシュに。「大学対抗の部」の選手たち。



■ 「インターナショナルの部」外国人選手もモノ慣れた手つき。



■ 今年も決着はプレイオフで。13人が参加して最後の真剣勝負。



■ 休憩時間を利用して濱田審査員長が講演。テーマは味覚と嗅覚。



「日本酒は、飲んだ量は裏切らない」優勝3氏が喜びの言葉



表彰式の後の記念撮影。個人優勝の高橋さん、団体優勝の宮城県チーム(三村・奥村ペア)を囲んで、右から全国農業協同組合連合会・米穀部の石澤原材料課長、日本酒造組合中央会の篠原会長。左端は日本酒マスコットのおちょくん。

勝負が終わって、オフサイドの時間に。懇親パーティの途中に行われた、お待ちかねの成績発表&表彰式では、中央会の篠原会長と全農の石澤原材料課長から、各部門の入賞者に賞状、記念品(日本酒と全農提供のお米券など)、優勝杯などを手渡されるたび、会場から大きな賞賛の拍手が。団体・個人の部を制した3氏も、「日本酒をいっぱい飲んできてホントによかった」(三村さん)、「日本酒は、飲んだ量は裏切らない」(植田さん)、「店を閉めて行くんだから何とかしてっしょいと、妻にハッパを掛けられて来たので、とてもうれしい」(高橋さん)と、それぞれ印象的な喜びの言葉で会場を沸かせました。



上位入賞者の皆さん



団体の部・第3位 高知県チームの川田博士さん(右)と三戸毅さん



団体の部・第2位 愛知県チームの阪野里帆さん(右)と服部知邑さん



個人の部・第3位 千葉県代表・青木三枝子さん



個人の部・準優勝 愛知県代表・服部知邑さん



大学対抗の部 優勝は京都大学チーム(中央の2人)、第2位は徳島大学チーム(左の2人)、第3位は青山学院大学チーム



インターナショナルの部 優勝は韓国の金彩潤さん(中央)、準優勝は台湾の李倫さん(左)、第3位はフランスのジャン・ギヤスパール・パーレニーチェックさん

きき酒仲間
は飲み仲間
～懇親パーティ
の会場から～



おいしい料理と日本酒を囲んで



「日本酒を世界の食中酒にしよう」中央会・篠原会長の発声で、日本酒でカンパイ！



正解発表に一喜一憂



中締め挨拶は、需要開発委員会の辰馬副委員長。「レベルの高い大会でした」



飲むほどに仲間が増える。蔵元ともどんどん知り合える



(左から右へ)「団体の部」第10位～4位入賞のみなさん